

ICTを活用して他校等と交流を行った事例

取組①の概要

特別支援学校（聴覚障害）中学部の学級活動において、近隣の学校とオンラインによる交流及び共同学習を実施した。

プレゼンテーションソフトで学校紹介の資料を作成し、テレビ会議システムでお互いの学校を紹介し合い、質疑応答などのやりとりを行った。

お互いの顔が良く見えるようにギャラリーレビューで表示し、相手校の生徒はあらかじめ学んだ手話やホワイトボードに文字を書いて自己紹介や質疑応答を行った。

特別支援学校の生徒たちは、オンラインは対面で話すよりも言葉が伝わりにくいことを実感し、声の大きさやはっきりとした発音、話す速度に気を付け、相手に確実に伝えようとする意識が高まった。

<活用したICT>

スクリーン、プロジェクター、ICT端末（カメラ）



（授業の様子）

取組の効果

- 感染症対策など直接の交流が難しい際にも交流が可能に。
- 画面越しだからこそ、相手により伝わりやすい発表の仕方や話し方を考えるきっかけになった。

取組②の概要

特別支援学校（聴覚障害）小学部において、地域のボランティアの大学生との交流会をオンラインで実施した。

教室と大学生の自宅をオンラインでつなぎ、画面越しにコミュニケーションを取りながら、大学で開催される「ブックリユースカフェ」という、古本を無償で提供するイベント活動で使用するエコバッグを作る活動を行った。学生は、画用紙にメッセージを書いて画面に映しながら児童とコミュニケーションを取った。

集まって活動することが難しいコロナ禍の状況であっても、児童と大学生がICT端末を介して、作業状況を互いに映像で確認しながら取り組むことにより、児童が様々な人々と協働しながら活動に取り組むことができた。

<活用したICT>

大型提示装置、プロジェクター、ICT端末（カメラ）



（活動の様子）



取組の効果

- 感染症対策など直接の交流が難しい際にも交流の機会を確保。
- 端末画面を活用した視覚支援を行うことで、円滑なコミュニケーションが可能に。